# 教育思想史の視点から学校教育を語り直す

11 月 12 日（土）に「現代的学校教育の課題解決シリーズ 2016」の学び合う仲間による教員研修リレー講座の第 9 回が行われました。今回は、愛知教育大学教授の野平慎二先生（教育哲学）による、「教育思想史の視点から学校教育を語り直す」と題して、物語ること/語り直すことと人の育ち、学校教育の見立てと語り直し（近代における教育の誕生、近代の二元論的世界観、反省的/再帰的近代化、開発型教育から再帰型/自己準拠型教育への語り直し）について、具体的資料を基にした教育実践とのつながりや、前近代社会の学びと歴史的事例を取り上げてのアクティブ・ラーニングの理解など、充実した学び合いが展開されました。

＜参加者の感想から＞

○ 「大人が子どもを変える」のではなく「大人からの影響を受けて、子ども自身で、自分で変わる」、大人から子どもにすることは「子どもの声をきくこと、自分を磨くこと」という言葉が印象的でした。

○ アクティブ・ラーニングの奥深さを知りました。子どもが影響を受けるものを考え、子どもが自ら変わっていくことや、子どもが憧れる大人になること、努力します。

○ 「教えない社会」と「教える社会」、「放任」と「指導」の見方など、自分の中に響きました。「哲学」が身近に感じました。

○ 現在の教育を教育思想という視点からみると、今の子どもたちに足りない力や身につけさせたいと言われている力について、なぜそう言われるようになったのか理解できました。

○ 自明のこと、常識と思っていたことを見つめ直すことができ、日々の実践をふりかえることができた有意義な講義でした。

○ 子どもを操作することはできない、子どもから憧れてもらえる大人へと自分を磨く。来年度から教員になります。今から意識していきます。